

2008年産ビワマスの年齢・体長組成

田中 秀具

◆背景・目的

ビワマス資源のモニタリングを行うため、2008年のビワマス漁獲魚と回帰親魚の年齢・体長の組成を調査した。

◆成果の内容・特徴

- ・6～9月の漁獲魚(標本881尾)の平均被鱗体長(以下、体長)は40.9cm、年齢は1⁺～5⁺で構成された(表1)。
- ・10月の回帰親魚(標本556尾)の平均体長は44.2cm、年齢は1⁺～5⁺で構成された(表2)。
- ・過去との比較では、2008年産ビワマスは、昨年、一昨年と同様に漁獲魚・回帰親魚とも体長が大きく、年齢が高いのが特徴で、それは①各年級で体長が大きく、それが重なって全体が大きくなることと、②3+以上魚の割合が高いこととによると推測された(表1～4)。
- ・最近5年の資源添加が順調な(県目標「2gサイズの稚魚を70万尾/年放流」をほぼ達成.)ことと、親魚量が豊富なこと(10万粒採卵に要する日数が1.19日)の2点を考慮すると、上記の現象は、ビワマス資源が漁獲圧に対して、ゆとりがあることを示唆するのではないかと推測した。

◆成果の活用・留意点

湖内でビワマスの船釣り(トローリング)が行われるようになり、その資源への影響等、一層資源状況の把握に努める必要がある。

表1. 漁獲魚の年齢別平均体長の比較(単位: cm)

年	1963	1964	1984	1985	2006	2007	2008
全魚	34.7	34.8	34.6	36.3	40.7	42.2	40.9
1+魚	25.0	22.9	23.2	24.5	-	32.9	32.7
2+魚	33.1	34.2	33.0	33.2	37.3	38.9	37.8
3+魚	37.7	38.9	37.3	38.9	42.1	44.3	44.0
4+魚	47.6	-	42.9	43.9	46.9	48.8	49.3
5+魚	-	-	48.7	48.9	53.1	54.3	57.2

表2. 回帰親魚の年齢別平均体長の比較(単位: cm)

年	1950	1963	1964	1984	1985	2006	2007	2008
全魚	42.7	31.9	36.2	38.3	39.2	42.2	46.1	44.2
1+魚	-	25.3	24.8	27.0	26.6	28.6	31.2	32.2
2+魚	37.5	33.0	35.1	35.6	34.9	37.9	41.2	39.0
3+魚	42.5	43.9	39.8	40.9	41.1	42.6	46.2	46.9
4+魚	45.6	44.5	47.9	46.1	45.1	47.4	50.4	51.3
5+魚	46.0	-	-	48.7	47.6	51.4	53.6	57.3

表3. 漁獲魚の年齢組成(%)

年	1+	2+	3+	4+	5+	計
1963	3.2	62.9	30.6	3.2	0.0	100
1964	1.2	82.9	15.9	0.0	0.0	100
1984	2.4	61.7	30.2	5.3	0.4	100
1985	3.9	44.8	41.6	8.7	1.0	100
2006	0.0	47.5	38.7	10.1	3.7	100
2007	3.9	41.8	42.4	10.2	1.8	100
2008	10.6	42.0	36.5	9.4	1.5	100

表4. 回帰親魚の年齢組成(%)

年	1+	2+	3+	4+	5+	計
1950	0.0	17.9	45.5	35.0	1.6	100
1963	28.2	61.9	8.8	1.1	0.0	100
1964	4.6	65.0	28.6	1.8	0.0	100
1984	0.9	51.2	42.6	5.1	0.2	100
1985	6.6	24.2	55.0	13.3	0.9	100
2006	2.0	30.0	44.8	17.3	5.9	100
2007	2.2	21.2	49.8	22.1	4.7	100
2008	10.8	25.5	44.6	17.1	2.0	100